

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームつつじⅡ(第2ユニット)	評価実施年月日	平成21年1月12日～平成21年2月11日
評価実施構成員氏名	日高彰子・久保田裕子・川口恵利・奥夕希子・磯田晴美		
記録者氏名	日高彰子	記録年月日	平成21年2月14日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>○</p> <p>今後は、地域に根ざした文言を加えた方針を検討しています。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>○</p> <p>家庭的な雰囲気味わっていただきながら、家事等を通して、ご自分で出来ることを少しずつ増やしていただくよう働きかけています。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>○</p> <p>見学や入居の際に運営理念を、ご本人やご家族に説明しています。また、玄関ホール等にも掲示を行い、ご家族や地域の方が来所された時にご確認頂ける様にしています。</p> <p>今後も、見学や入居時の説明を行い、事業所の理念を理解して頂ける様取り組んでいきます。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>○</p> <p>夏祭りやイベントなどで地域の方と交流する機会を作っています。日中は敷地内の門扉を開放し、ご近所の方が気軽に立ち寄りやすいようにしています。玄関周りの花壇、畑を整備し、中庭にベンチを設置するなど、ご近所の方が気軽に訪れてもらえる様に配慮しています。</p> <p>近隣の方々が散歩に来られる際は、こちらから声をかけ挨拶を行い、親しみを込めた関係作りを心掛けています。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>○</p> <p>地域の子供や近隣住民との交流をさらに深め、行事以外の日常的な付き合いもできるようにしていきたいと思います。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>○</p> <p>町内会や民生委員の方々と話し合い、伝達講習などホームが協力できることも考えていきたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価や外部評価報告書に基づき、職員全員が十分に話し合いを行っています。評価後の足りない部分については、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいます。</p>	○	<p>今後も改善が必要な問題等を話し合う機会を設け、より良いホーム作りに努めたいと思います。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、家族、地域の方々にサービスや生活状況を報告し意見を伺っています。</p>	○	<p>運営推進会議では、自己評価や外部評価について確認する時間を作り、改善に向けた取り組みをお伝えし、意見交換をおこない、サービス向上に活かせるようにしています。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>小樽市の開催する勉強会やグループホーム協議会に参加しています。</p>		<p>今後も勉強会などに参加し、情報交換を行っていききたいと思います。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者研修を受講し、権利擁護について学んでいますが、活用はなかなかできていません。</p>	○	<p>今後は社内研修などにも『権利擁護』を取り込み、職員が学ぶ機会を作っていききたいと思います。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修会があれば交代で出来るだけ参加するようにしています。定期的に社内研修を行い、職員が熟知できる様に努めています。</p>	○	<p>今後も、外部研修に参加や社内研修を定期的に行い職員全員で認識していききたいと思います。事業所内で虐待が見過ごされる事が無いよう取り組んでいきます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約前は、利用者や家族に十分に説明を行っています。契約後も不安や疑問点を随時確認し、利用者、家族と話し合う機会を作っています。</p>		<p>今後も十分な説明を行い、理解を図っていききたいと思います。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見や苦情、不安に思っていることを都度伺うようにしており、ご家族と相談しながら解決できるように努め日々の生活に活かしています。		家族には、面会時や電話にてご意見やご要望を確認しています。利用者は日常生活の中で意見を聞ける様にしています。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話や面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えています。職員の異動についても、面会時や電話等で説明しています。お小遣いの使用状況や残りの金額等は、定期的の手紙で報告しています。		今後も個々にあった対応を行っていきます。面会時などには、ご本人が作った作品を見ていただいたり、ホームでの過ごし方をお話しています。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口は重要事項説明書等で説明しています。今のところ苦情、意見、不満などはありませんが、気軽に話せる雰囲気作りを心掛けています。	○	家族が気軽に職員に話せる様、日頃からコミュニケーションを大切にいき、事業所運営に反映させたいと思います。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見、提案は、随時受け付けています。運営者、管理者は、内容を受け止め運営に反映させていきたいと思っています。		月に1回スタッフからの意見を聞く機会を作っています。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	業務に支障が出ないように勤務調整を行っています。急な対応が可能なようにプラスの職員を確保するように心掛けています。		ヘルパー資格を持つ事務職員もおり、柔軟な勤務調整ができる体制を作っています。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動時に利用者が不安を感じない様に、日頃からユニット間の交流の場を設けています。また、異動がある場合は、管理者や職員がいつも以上に関わりをもつようになっています。		職員の異動による不安を解消できるように、複数の異動をしないようにしています。異動の直後は、利用者との関わりの時間を多めに持ち、利用者の話をよく聴くようにしています。
5. 人材の育成と支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回議題を設け、社内研修を行っています。職員の能力、経験に応じて社外研修にも参加する取り組みをしています。	○	職員が資格取得を目指すように勧め、有資格者が勉強方法についてのアドバイスをしたりしています。今後も社外、社内研修の機会を増やし、職員のスキルアップに努めたいと思います。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市外のほかのグループホームへの見学を行いました。また、グループホーム協議会への参加も行っています。協力関係機関の病院や合同学集会などにも参加し、サービスの質を向上できるように努めています。		道内の他のグループホームの見学を行い、施設運営に活かしています。今後も、他施設と交流を持ち、サービスの質を向上させる為に意見交換をする場を持ちたいと思います。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士が交流する機会を多く設け、気軽に相談したり、話せる雰囲気作りをしています。		職員同士が、話し合ったり相談できる雰囲気作りを今後も作っていききたいと思います。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の経験や能力によって、業務分担を行い、向上心をもてる様な職場作りを心掛けています。		今後も職員の意向を受け入れ、話し合い、各自が向上心を持てる様にしていきたいと思っています。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に際しては、利用者本人の意見や意向を尊重し、利用者が希望している生活に近づけられるような努力をしている。また、サービス利用中も継続的に利用者の意見や意向を確認しています。		ご自分の意見や意向についてはっきり伝えられない利用者に対しては、言葉だけではなく表情などのコミュニケーションから気持ちを汲み取れるように努力していきたいです。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が置かれている状況や悩みについて傾聴し、サービス利用によって家族を支援できるよう努力しています。		家族と職員のコミュニケーションにより、不安や求めていることをいつでも話し合える体制作りを心掛けています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の話を傾聴する事によって、利用者や家族のニーズを見極め、最善の選択ができるように協力しています。		相談を受けた時は、安易にサービス利用と決め付けず、利用者が必要なサービスを利用できるよう対応しています。必要であれば、他サービスへの紹介等も行っています。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の際は、家族だけでなく、できる限り本人にも事業所の見学をしていただくようにしています。見学ができない場合は、管理者や職員が事前に本人に会ってホームの雰囲気を説明します。本人が納得した上で入居するようにしています。場合によっては、何回か体験利用を重ねる方もいらっしゃいます。		利用者・家族から生活歴など詳細に聴き、職員が積極的に関わって不安なく生活できるように努力しています。場の雰囲気や他利用者には、時間をかけてなじんでいってもらえるよう支援しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に家事援助することで、利用者の得意な部分は、職員が教えてもらったり、手伝ってもらう機会を作って、利用者支えあう関係を築いています。		料理や縫い物などを利用者から教えていただきながら、関わりの中での自信の回復につなげています。今後も共に学び、共に支えあう関係を継続し、その人らしい生活が送れるように支援していきます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者に関する事は、ホームだけの問題とせず、何でも家族に相談するようにしています。また、家族からの意見も取り入れて、サービス提供に生かしています。		夏祭りなどのホームの催しに家族も参加して頂き、利用者ご家族と一緒に過ごす機会を作り、家族と共に利用者を支えていく関係を築いています。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの生活歴などを確認して、本人と家族の関係を理解するようにし、関係を良好に保てるように支援しています。		本人と家族の関係、家族間などの関係を理解し、連絡調整などがスムーズに進むようにしていきます。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友達の面会、利用前からの病院の受診などについては、可能な限り入居後もできるよう工夫し、今までの関係が途切れない様になっています。		今後も出来る限り、ご本人の希望に沿って、ご家族のご協力のもと支援を行っていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の生活観を尊重し、職員が間に入り、趣味が一緒の利用者同士の関わりを作るようにしたりしています。また、相性が良くない利用者同士の衝突を防ぐなど行い、利用者全員が穏やかに過ごせるようにしています。		職員が間を介する事で、よりいっそう利用者同士のコミュニケーションが図れるようにしていきたいです。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所時には、移転先を聞くようにしています。また、何かあった時は、いつでも相談にのれるということを説明しています。		退所してからも、利用者・家族が気軽に訪ねてもらえるような良い関係を作りたいと思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の起床時刻・就寝時刻・食事内容などの生活状況を事前に確認して、サービス提供時の参考にし、利用者が戸惑わないようにしています。		一人ひとりにあったケアが行われるように、職員間で話し合っており、利用者の趣味活動も応援しています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活歴を十分に把握し、サービス提供に生かすようにしています。		入居中も新しい情報を得られれば、その都度情報を整理し、より良いサービス提供を目指したいと思います。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の言動、バイタル測定、食事摂取の量などの把握を行い、記録に残すようにしています。状態については、申し送りなどの際に職員間で共有するようにしています。		利用者の状態の把握に努め、日々のサービス提供が円滑に行えるようにしています。身支度、食後の歯磨きの習慣を取り戻せるよう働きかけをしています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は利用者の意向を一番に考え、利用者個々の状態、特徴を考慮した具体的な計画を作成しています。夜間や早朝の時間帯のサービスについては、夜勤者の意見も取り入れて、サービスの変更なども行っています。		ご本人やご家族からの聞き取りや担当者会議などで、職員から意見やアイデアを出してもらい、内容を検討してケアプランに反映させるようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員の管理の下、介護計画の見直し時には担当者会議を開催し、モニタリングを行い、現状に即した計画作成を行っています。		介護計画の見直しについては、ご家族の意見を伺って、意見を取り入れたプラン作成を行っています。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の日々の様子は個別記録に記入し、職員間の伝達事項は申し送りノートを使い、情報を共有に努めています。個別記録などの情報を基に介護計画の見直しを行っています。		今後も記録の充実に努め、利用者の状態にあった介護計画を作成していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の希望による美容室の利用や、家族が付き添えない場合の通院介助など必要に応じて対応しています。また、ご家族が宿泊をご希望される場合は、ご本人の居室のほか、ゲストルームも準備しています。	○	今後は、利用者の買物付き添いなどの特別な外出なども利用できるように工夫していきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方が運営推進会議に参加してくださっています。消防による救急救命講習は年に2回開催しています。地域の小学校からは、学習発表会や運動会などに招待して頂いています。また、幼稚園の生徒たちがホームの中庭で歌や踊りを披露して頂く機会もあり、利用者から大変喜ばれました。家族のボランティアによる歌会の開催や茶道やマッサージの先生によるボランティア活動も行われています。		ボランティアによるお茶会・歌会・指圧等は利用者からの評判もよく、今後も協力を頂きたいと思っています。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時には、地域の連絡協議会や居宅サービス事業者の方々の協力を得ています。		地域のレクリエーションや行事等にホームも参加させていただいています。また居宅サービス事業所からは入居相談などがあります。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時には、地域包括支援センターに相談をしています。		町内の活動・催しに参加し、地域の方々と交流を深めながら、生活ができる様に話し合い、協力を得ています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		<p>ご契約時に、本人・家族と相談し、入居後のかかりつけ医を決めていただいています。ご希望がなければ、施設の協力医(内科・整形外科・精神科・歯科)をご紹介します。日頃からかかりつけ医との連絡体制を密にし、何かあった時はすぐに対応していただけるような関係を築いています。</p> <p>病院から受けた指示や病状の説明などは、家族に説明を行っています。必要があれば、受診(往診)時に家族にも立ち会っていただき、医師と直接話をして頂くようにしています。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		<p>専門医の診療が必要であれば対応をしています。</p> <p>かかりつけ医が認知症専門医なので、診断・治療を受けています。必要であれば、他の病院への紹介もしていただいています。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		<p>看護職員は確保していませんが、かかりつけ医(内科、整形外科、歯科等)の看護師とは随時連絡を取り合っています。</p> <p>健康状態に対する相談にのっていただき、医師との橋渡しをしていただいています。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		<p>早期退院に向け、医師とは密に連絡をとり、早く退院ができるよう対応しています。</p> <p>今後も、入院中の情報交換を頻繁におこない、利用者の不安軽減に努めていきたいです。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	<p>主治医、家族と早い段階から十分話し合いをして方針を決めています。</p> <p>必要に応じ、その方にあった機関の利用を支援しています。重度化や終末期に向けての方針作成への取り組みも行っています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>本人、家族の意向を十分お聞きして、主治医とも相談しながら一番適した環境で安心して過ごせるように支援しています。</p> <p>ホームでの生活が一日でも長く続けられる為に、かかりつけ医の協力を得て、本人や家族が安心できるよう支援していきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住替え先には、十分情報提供を行っています。</p>		<p>本人の状態に応じて、対処しています。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の人格を尊重し、言葉かけは敬語で行うを基本に、ゆったりした雰囲気作り之心掛けています。</p>		<p>利用者は人生の先輩として尊重するよう職員にも話しています。記録は、本人が話したことをそのまま記録するようにしています。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が何事も決めてしまうのではなく、できる限り利用者が自己決定できるように、利用者に確認をとって物事を進めるようにしています。自己決定ができることで、利用者の自信の回復につながるよう、支援しています。</p>		<p>はっきり自分の思いを表せない利用者にも、質問を簡単にするなど工夫を行い、自己決定する機会を少しずつ増やしていきたいと思ひます。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴の日や体操の参加などは、職員が押し付けず、各利用者が自分の体調などを考えながら決められるように必ず確認をしています。一人一人の性格・状況にあった関わりを大切にしています。</p>	○	<p>利用者と職員が話しやすい雰囲気を作り、個々のペースに合わせてくれるよう工夫していきたいです。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者と一緒に服を選んだり、美容室では希望の髪型にするようにしています。</p>		<p>個性のある身だしなみを支援していきたいと思ひます。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員が同じ食卓につき楽しく食べれるように支援しています。また、何が食べたいかなどの希望を聞き、ある材料で工夫して調理しています。季節や行事にあったメニューも提供し、美味しく食べられるように努めています。食事の準備、後始末はできる範囲で楽しく行ってもらっています。</p>		<p>食事の時間が楽しいものになるよう、体調の変化の把握、食事状態の観察には十分気を配っています。食事の準備や後片付けなど、職員と一緒に日課として行っていたいいる利用者も数名います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調を考慮し、医療機関に相談するなどして、個々の状況に合わせ、できる限り好みの物を提供しています。		現在はいませんが、煙草やお酒を希望される方がいれば、日常的に楽しんでいただけるよう支援していきたいと思います。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンに応じトイレ誘導を行い、トイレでの自己排泄を目指し支援しています。		トイレの誘導が必要な場合は、利用者のプライバシーを尊重するよう心がけています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴を基本に、その都度利用者に確認を行い、入浴時間や曜日などの希望に応えられるようにしています。個々のペースを尊重し、プライバシーには十分配慮しています。	○	できるだけ本人の希望(日・時間)にあわせたいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動量・体調を観察し、安眠に向けて支援をしています。		夜勤者からの申し送りによる、睡眠パターンを十分把握し、日中の活動につなげたいです。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴・趣味など十分把握し、その人にあった楽しみ・役割を支援しています。		個々に合った楽しみ、気晴らしを増やしていきたいと思います。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務所にて、小遣いとして管理しています。都度、必要な物があれば購入しています。	○	利用者の希望に応じ、買い物に出る機会を日常的に作るよう努めていきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に沿った外出の機会を持っています。ご家族の協力の下で外食をしたり、ご自宅で過ごす機会を持っています。ご家族があまり来ない方は、職員と近くを散歩したり、近くの小学校の行事や収穫祭に参加することをお勧めしたりしています。		利用者個々の体調をみながら無理強いせず、外出支援を続けていきたいと思っています。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事として、お花見・紅葉狩りにバスで出かけています。	○	外出する機会がより多くもて、家族も参加できるような行事を増やしていきたいです。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、フロアにある電話を使用し、家族や知人の方に電話をしたりしています。個人宛ての手紙が来る利用者も多く、返事を書く場合は職員がポストに出しに行きます。		電話が来たり手紙が来る事は、利用者にとって非常に楽しみになっているので、今後も積極的に支援していきたいです。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者が居心地よく過ごせる雰囲気作りに努めています。		馴染みの方々には、気軽に訪問して頂いています。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束」に関する外部研修に積極的に参加し、社内の「身体拘束廃止推進委員会」にてホームでの対応等検討しています。また、職員が「身体拘束」について理解が出来るよう社内研修を行っています。		今後も、外部研修に参加や社内研修を定期的に行い職員全員で認識していきたいと思っています。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関に鍵を掛けないことになっていますが、利用者の状態に応じて、必要と思われる時は施錠を検討します。夜間は防犯のために玄関に施錠をしています。		利用者・家族・職員が共用する玄関である為、出入りが自由なので必要に応じて施錠する事があります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で声を掛け合い、利用者の所在や様子は、常に把握するようにしています。		利用者の所在・様子を把握しながら、調理、配膳などをし安全には十分配慮しています。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物品に関しては、職員が責任を持って保管・管理しています。利用者の個人の物品に関しては、入居の際に説明を行い、危険な物の所持は出来るだけご辞退いただき、どうしても必要な場合は、使用時以外は職員がお預かりしています。		ユニット内の利用者の状況に合わせて、注意の必要な物品の対応をしています。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のため、定期的に研修を行っています。個々の状態に合わせ体調・様子を把握し、事故防止に努めています。		事故・緊急時の連絡体制を整備しています。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の講習・研修を定期的に行っています。		職員全員が、迅速に対応できる様にしていきたいです。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画に基づき、避難訓練、自主訓練、夜間避難訓練を行っています。隣接するグループホームと協力し、安全に非難できる体制を整え、訓練を行っています。	○	消防訓練の際、地域の方々にもご参加いただくようにし、緊急時には地域の人々の協力を得られる体制にしていきたいと考えています。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の状態の変化などは家族にすぐに伝え、対応などを一緒に考えていただいています。		ホームでの生活の様子や体調などを、面会時または急を要する時には、電話にて報告・相談しています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定・会話・表情などにより、状態の変化を早めに発見するようにしています。利用者の情報は職員間で共有し、早い対応ができるようにしています。		日常生活の中での変化に気づくこと、職員間での連絡や相談を密にする事で早期発見、早期対応をしていきたいと思っています。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用の際、日付・名前を読み上げ確認しています。副作用・用法・用量は説明書により把握し支援しています。		安全に服用できる様、理解・確認を続けたいと思います。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日、個々の排便有無を確認し、排便表に記録しています。飲食物の工夫・水分量・運動への働きかけをしています。		便秘が続く時は、かかりつけ医へ連絡・指示を受けています。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時と毎食後の歯磨きを行います。義歯使用の方は、夕食後に義歯を預かり消毒をし、清潔を保つよう支援しています。		口腔状態のチェックは定期的に行われています。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はおおよそ把握しており、介護記録に記入しています。むせがある方や歯がない方の状態に合わせて、刻み食やミキサー食にしたり、水分にとろみをつけるなど工夫をしています。		嚥下状態の低下を防ぐ為、口腔体操なども取り入れています。定時に水分をお勧めし、水分の種類にも変化をつけて飽きが来ないように工夫しています。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・利用者共に、毎年インフルエンザの予防接種を受けています。感染予防対策として、次亜塩素酸ナトリウムで消毒しています。流行時は面会者にも、手洗い、マスクの使用をお願いしています。		感染症予防の為、利用者・職員共に、うがい・手洗いを励行しています。運営推進会議においても、インフルエンザの予防について、お話をいただいています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所は常に清潔に使用し、調理器具の消毒は一日に一回、冷蔵庫の整理・消毒は週一回行っています。食材を使用する際は、鮮度の確認をしています。		食材を扱う際は、手洗い・消毒を徹底しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は出入り口の段差をなくし、安心して出入りできるようになっています。花壇・観葉植物を配置し、掃除を毎日行うことで、利用者や家族が気持ち良く利用できるよう工夫しています。	○	秋・冬にかけて花壇がさみしくなってしまうため、四季折々楽しめる様、これからも工夫していきたいです。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の草花や飾り(雛飾り、五月人形、クリスマス、お正月)をし、季節感を出せるように工夫しています。また、毎日の掃除により、快適な環境づくりを心掛けています。不快な音や光がないようにその都度職員が調整しています。	○	食事の内容も、旬の物や行事にあったものを取り入れて季節感を味わっていただけるようにしています。利用者が安心して過ごせる場になるよう、これからも工夫していきたいと思います。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では、テレビを観たり体操レクリエーションを行い、自由にゆったり過ごせるように配慮しています。また職員との談話、コミュニケーションの場ともなっています。		安心してくつろいで頂けるよう配慮し、季節を感じられる様な雰囲気作りを心掛けています。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い馴れた生活用品を持ち込んでいただき、利用者が好みに応じて居心地よく生活ができるようにしています。		家具や置物、写真、食器など、それぞれ以前から愛用されていた物を持ってこられています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度や湿度は定期的に確認し、調整を行っています。また、定期的に窓を開けて換気を行っています。		温度、湿度、換気に気をつけて、利用者が風邪など引かないように注意しています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険予測を行い、必要なところに手すりが配置してあります。床はバリアフリー対応など、機能の低下に合わせ配慮しています。		トイレ・浴室・居室入り口には、わかりやすい表示がしてあります。必要な方には、椅子に滑りどめマットを敷いて体幹が保てるように工夫しています。今後も安全にできるだけ自立した生活が送れるように、環境づくりに努めていきます。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人のできることで、できないことを把握し、できないことについては一緒に行って頂き、自立に向けての支援を行っています。	○	職員と一緒に炊事や掃除、洗濯、縫い物などの活動を、無理のない範囲で楽しく行っています。自信の回復を図りながら、自立に向けた支援を今後も行っています。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭・散策路があり、天気の良い日は外で過ごせるようになっています。また、花壇・畑づくり、一緒に野菜を収穫したり、散歩時に花を眺めて楽しんでいます。季節によって、中庭でホーム喫茶を行ったり、ボランティアによる琴コンサートを行っています。中庭・散策路は同じ敷地内のグループホームの利用者と交流したりできる場として活用しています。	○	中庭では、地域の小学生がお神輿を担いでくださったり、幼稚園の生徒が歌や踊りを披露してくれたり、ステージの役割もあります。冬期間は利用できませんが、『雪明りの路』のキャンドルを飾り、利用者に見て頂き喜んでいただく事ができました。冬季は、室内でホーム喫茶を行います。天候などによって、他ホームに出向いて、お茶やおしゃべりを楽しんだりしています。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">①</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">①</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的な雰囲気の中で、ご家族の意向を聞きながら、利用者の方々が安心して安全に生活できるよう努めています。また、地域の方々の協力を得ながら交流を深め、地域に密着したグループホーム作りを目指しています。